

連続講座 新・大阪学事始「なにわ古代史2」

巨大古墳の謎 ー百舌鳥・古市古墳群ー ③

倭の五王と大王

ー巨大古墳に眠るのは誰？ー

2019年9月26日 柏原市立歴史資料館 安村 俊史

はじめに

古墳時代に関する文献史料は『古事記』『日本書紀』に限られますが、わずかに中国や朝鮮半島の史料にも日本に関する記述がみられます。そのなかで、しばしば引用されるのが『宋書倭国伝』で、そこには倭から五人の王が宋に朝貢したことが記されています。5世紀のことで、百舌鳥・古市古墳群の時代に重なります。そして、『宋書』は『古事記』『日本書紀』よりも信頼性が高いのです。それでは、倭の五王とはどの王なのか。そして、巨大古墳に葬られたのは誰なのか。考えてみたいと思います。

1. 古墳の編年

- ・編年の基準にされている埴輪と須恵器。
- ・埴輪 未調査でも資料を得ることができる。古墳築造とほぼ同時に造られた。
- ・副葬品は製作年と埋葬年が必ずしも一致しない。
- ・調査例の少ない百舌鳥・古市古墳群では、埴輪以外に編年の基準が見当たらない。
- ・埴輪 野焼きか窯焼きか、形態、調整工具の痕跡などが編年の基準となる。
- ・古墳編年と歴代天皇の年代が一致しない古墳が多い。

○百舌鳥古墳群

- ・埴輪編年 石津丘（履中陵）→大山（仁徳陵）→田出井山（反正）→ニサンザイ
- ・歴代天皇 仁徳 → 履中 → 反正
- ・延喜式 百舌鳥耳原中陵 → 百舌鳥耳原南陵 → 百舌鳥耳原北陵

2. 百舌鳥・古市古墳群の造営集団

①造営主体は河内か大和か

- ・大和に本拠、墓地のみ河内へ 古墳用地不足、外交重視
- ・河内に本拠 河内政権論、河内を基盤とする勢力が権力掌握

○古墳の諸要素の継続性

- ・古墳の諸要素は古墳群の移動があっても引き継がれている。
- ・各古墳群の造営年代が重複する。

- ・大王墓を含まない馬見古墳群が継続して造営されている。
- ⇒複数の集団が王族を構成。王族が複数の系統に分かれていた。
- 大王を出す王族集団が変遷。

○造営集団

- ・『古事記』『日本書紀』では、ほとんど王宮は大和にある。
- 一部（応神・仁徳・反正）は難波・河内と記す。
- 王宮の位置と本拠地が一致するとは限らない。
- 古墳は基本的に本拠地に造営されたと考えられる。

- ・河内で王宮が未確認。

→大和でもほとんど確認できていない。

- ・生産遺跡は河内が卓越する。
- 法円坂倉庫群（5世紀前～中葉）の存在。
- 難波津の存在。

⇒河内を基盤とする勢力。大王の一派と在来の勢力が結びついたのではないか。

○百舌鳥古墳群と古市古墳群

- ・一つの古墳群ではない。
- ・諸要素は同じ一連携、交流が頻繁にあった。
- ・両古墳群ともに造営を担当した土師氏の居住地がみられる。
- ・基盤は、百舌鳥はのちの和泉地域、古市は河内地域。
- ・百舌鳥古墳群はニサンザイ古墳（5世紀後葉）で終息。
- ・古市古墳群は6世紀前半まで大王墓築造。

⇒異なる集団ではあったが、敵対する関係にはなかった。

それぞれから大王を輩出するが、必ずしも交互ではない。

有力な二集団から、もっとも相応しい人物を大王とした。5世紀後半以降は百舌鳥の勢力は衰退し、古市の勢力が強くなるが、その後混乱し、やがて大和へ戻る。

3. 倭の五王

○5世紀代、倭は中国の柵封体制下にあった。

- ・柵封 中国の皇帝が周辺諸国の長に官号、爵位を与えて君臣関係を結ぶ。
- ・王に即位すると、朝貢しなければならなかった。
- ・倭の五王

421年以前	讚	応神、仁徳、履中？
438～	珍	反正？
443～	濟	允恭
462～	興	安康
478～	武	雄略

- ・ 珍と済は血縁関係なし→讚・珍グループと済・興・武グループは別か。
- ・ 2グループは、同じ「倭」という姓を名乗り、同じ前方後円墳を採用。
→同族意識をもっていた→同族の異なる系統の集団か。
- ・ 埼玉古墳群稲荷山古墳出土鉄剣
辛亥年(471) ワカタケル大王=雄略。五王の武と年代が一致しない。
⇒倭の五王との対比がむずかしい。

4. 百舌鳥・古市古墳群の被葬者を考える

○倭の五王の古墳(試案)

大山	→	ニサンザイ・市ノ山	→	軽里大塚	→	岡ミサンザイ
5世紀前葉		中葉		後葉		末葉
讚		珍		済		興
仁徳		履中(反正)		允恭		安康
						武雄略

- ・ 安康の陵墓は、『日本書紀』では菅原伏見陵とする。
- ・ 必ずしもすべての王が朝貢したとは限らない。
- ・ 『日本書紀』などの天皇がすべて存在したかどうかわからない。
- ・ 試案のように考えると、讚・珍グループは百舌鳥古墳群に、済・(興)・武グループは古市古墳群にうまくわかる。

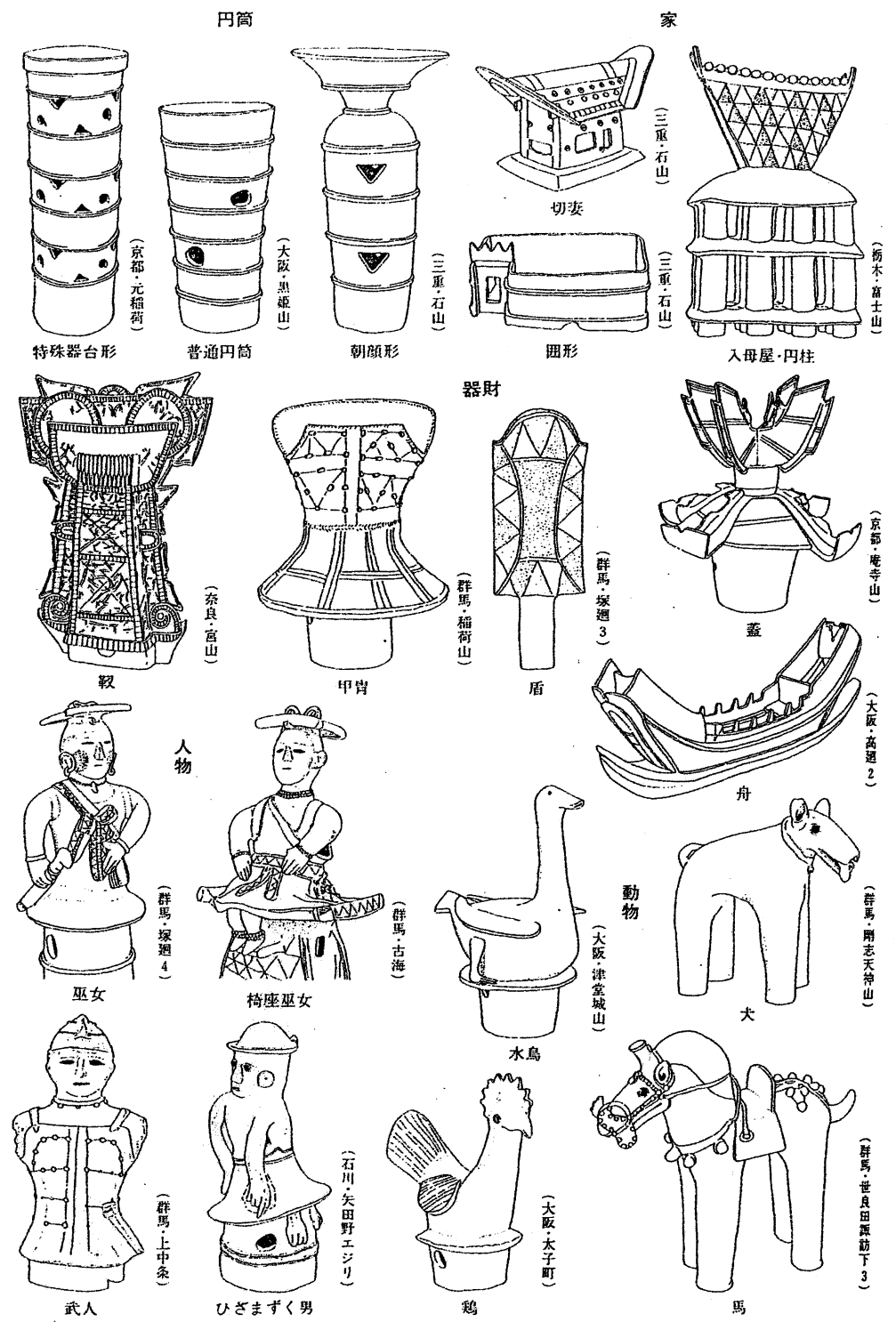
○その前後の大型古墳

- ・ 仲ツ山 4世紀末 仲哀
- ・ 津堂城山は、仲ツ山被葬者を生み出した前代の人物で大王ではない。
- ・ 石津丘古墳があてはまらない。讚(仁徳)を生み出す前代の人物と考えるか。
- ・ 誉田御病山 5世紀初頭 応神。
- ・ 清寧、仁賢、安閑も現在の治定でおかしくない。ただし年代詳細不明。
- ・ 継体は今城塚古墳(高槻市)。
- ・ 河内大塚山古墳は欽明の未埋葬古墳と考える。

まとめ

百舌鳥・古市古墳群の造営集団については、さまざまな考えかたがあります。私は、河内を基盤とする勢力が大王家の一派と結びついて、河内を基盤として造営した古墳群だと思います。おそらく、前代よりも武力的側面を強調し、権力を握ったのでしょう。河内の勢力と婚姻関係などで結びついたのかもしれませんが。

個々の古墳の被葬者を求めるのは、さらに困難になります。古墳の編年を明確にしたうえで、倭の五王を比定し、『記』『紀』にみられる天皇名と対比していくのがいいと思います。いずれにしても、一度の発掘調査でひっくりかえるかもしれない不確かなものであることを十分ご承知ください。3回にわたって聴講いただき、ありがとうございました。



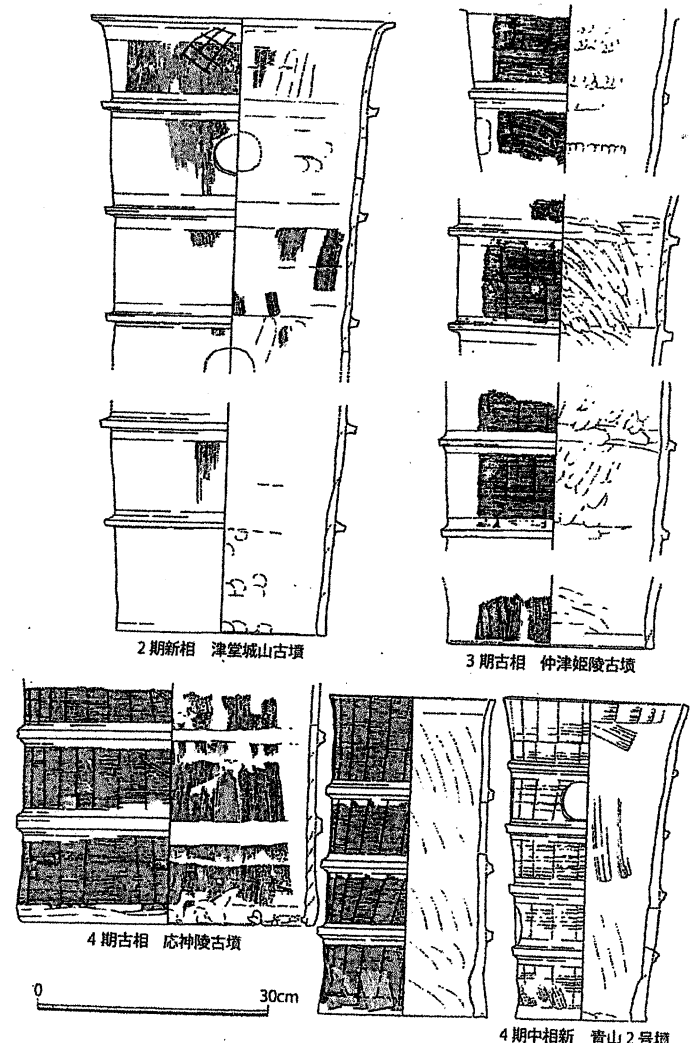
1. 埴輪のいろいろ

参考文献

一瀬和夫『百舌鳥・古市古墳群』2016
 大阪府立近つ飛鳥博物館『百舌鳥・古市の陵墓古墳』2011
 河内春人『倭の五王』2018
 白石太一郎『倭国の形成と展開』2013
 同成社『古墳時代の考古学』2 2012
 菱田哲郎『古代日本国家形成の考古学』2007
 藤井寺市教育委員会『倭の五王の時代』1996
 吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編『前方後円墳』2019

各部 時代と 埴輪の区分	特徴	焼成		ハケ				底部調整			透かし孔	
		有黒斑	無黒斑	1次		2次		突帯	台形	ゆるい	透かし孔	
				タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ	無し				▽△□	○
3世紀後半 4世紀前半	I	有黒斑	無黒斑	タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ	無し	突帯	台形	ゆるい	▽△□	○
4世紀中葉	II	有黒斑	無黒斑	タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ	無し	突帯	台形	ゆるい	▽△□	○
4世紀後半	III	有黒斑	無黒斑	タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ	無し	突帯	台形	ゆるい	▽△□	○
5世紀前半	IV	有黒斑	無黒斑	タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ	無し	突帯	台形	ゆるい	▽△□	○
5世紀後半	V	有黒斑	無黒斑	タテハケ	A種ヨコハケ	B種ヨコハケ	無し	突帯	台形	ゆるい	▽△□	○

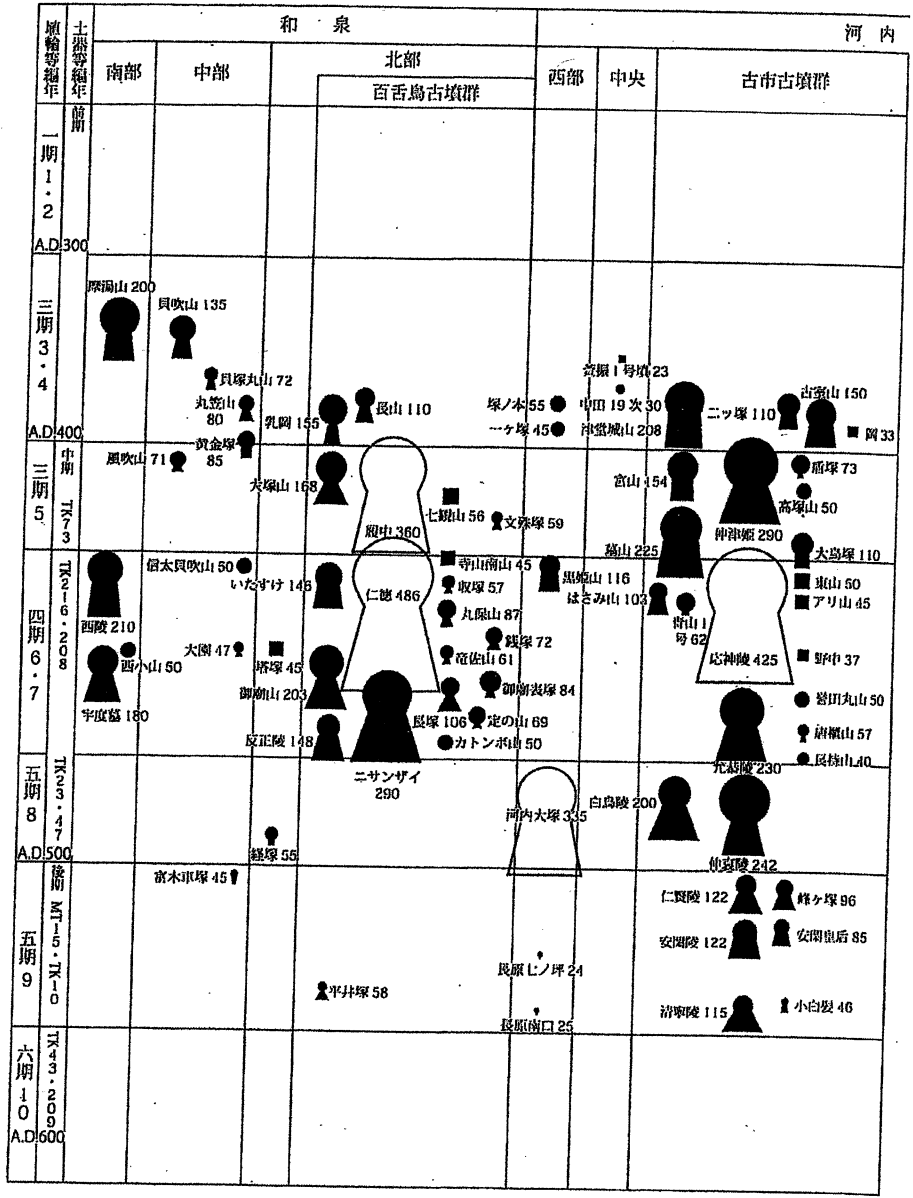
2. 円筒埴輪の変遷



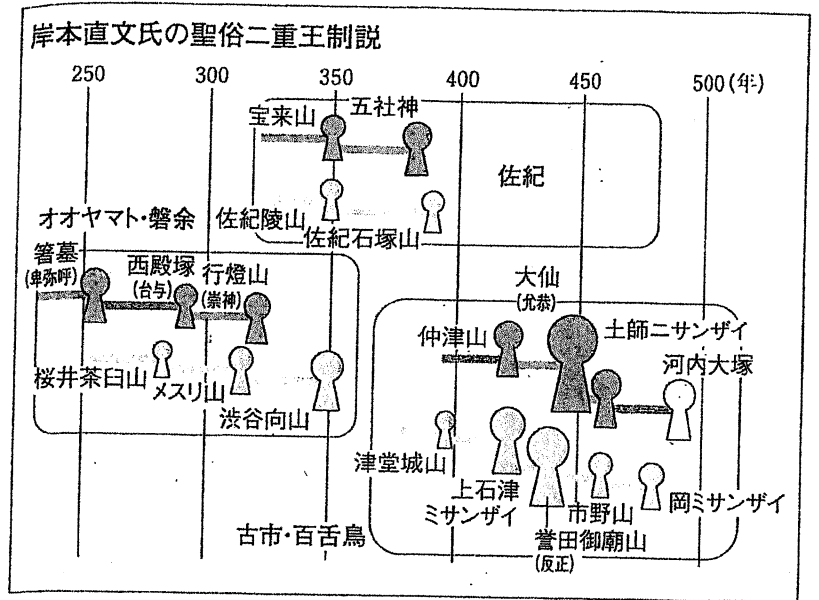
3. 古市古墳群の円筒埴輪

西暦	埴輪	須恵器の型式	古市古墳群		百舌鳥古墳群	
			100m以上の古墳	100m以下の古墳	100m以上の古墳	100m以下の古墳
400年	II		藤井寺埴輪参考地 (津堂城山古墳)	岡古墳	乳間古墳	
	III	TG232	仲津姫古墳 (仲津山古墳)	アリ山古墳	百舌鳥大塚山古墳	七瀬古墳
		TK73	福山古墳	野中古墳	東中天皇陵古墳	
450年	IV	TK216	応神天皇陵古墳		百舌鳥参考地 (百舌鳥山古墳)	
		TK208	允恭天皇陵古墳	赤子塚古墳	いたすけ古墳	仁徳天皇陵古墳
		TK23	白鳥古墳	長持山古墳	反正天皇陵古墳	
500年	V	TK47	仲津天皇陵古墳		東百舌鳥参考地 (土師ニサンザイ古墳)	
		MT15	清寧天皇陵古墳	壺ヶ塚古墳		
			仁賢天皇陵古墳	小白山古墳		

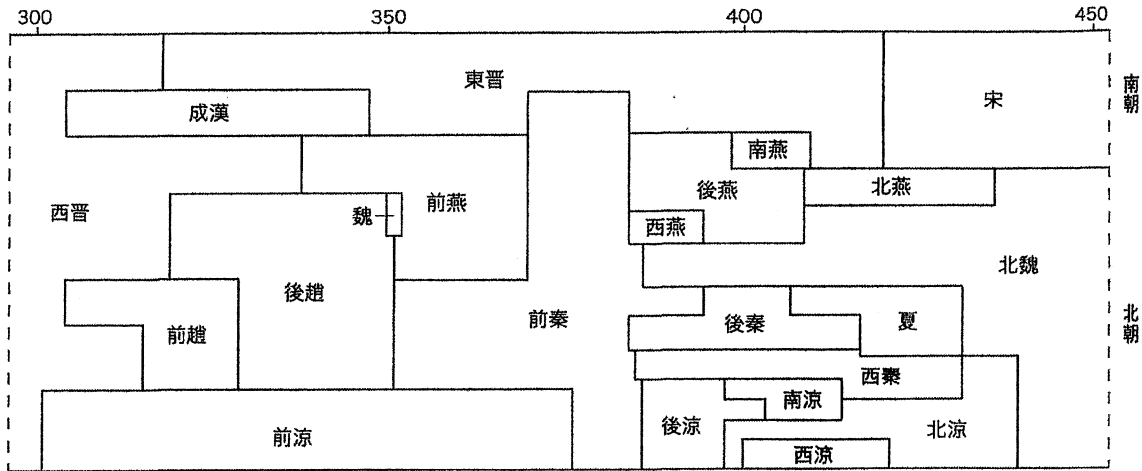
4. 百舌鳥・古市古墳群の編年 (近つ飛鳥博物館 2011)



5. 百舌鳥・古市古墳群の編年 (一瀬 2016)



6. 聖俗二重王制 (岸本直文)



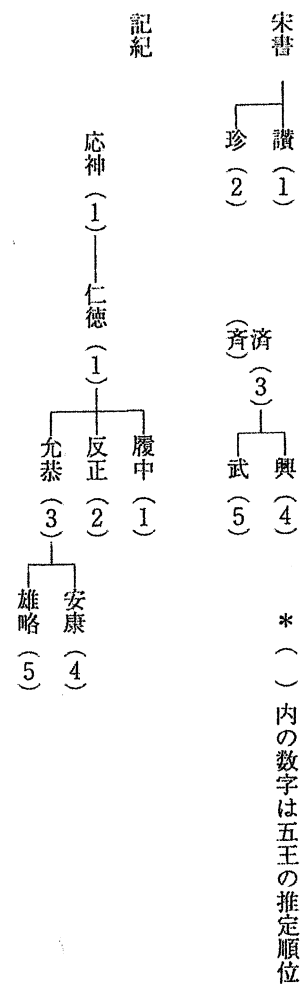
7. 中国の王朝

国名	年	代	遣使と授爵
東晋	義熙 四一九	四一九	倭王讚、方物を献す(『晋書』・『梁書』・『南史』)
宋	永初 四二一	四二一	武帝、宋朝樹立にともない、倭讚に除授を賜う(『宋書』)
	元嘉 四二二	四二二	讚、司馬曹達を遣わし、表を奉じて方物を献す(『宋書』)
	元嘉 四二五	四二五	倭国王、使を遣わし方物を献す(『宋書』)
	元嘉 四三〇	四三〇	讚の弟珍、使を遣わして貢献す。珍、「使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭国王」を自称し、除正を求む。文帝、珍を安東將軍・倭国王に除す(『宋書』)
	元嘉 四三八	四三八	倭国王、使を遣わし奉献す。文帝、済を復た安東將軍・倭国王となす(『宋書』)
	元嘉 四四三	四四三	文帝、倭済に「使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事」を加え、軍号を安東大將軍に進む(『宋書』)
	元嘉 四四四	四四四	倭国、使を遣わし方物を献す(『宋書』)
	元嘉 四五一	四五一	倭国王の世子興、使を遣わし貢献す。孝武帝、興を安東將軍・倭国王に除す(『宋書』)
	大明 四六〇	四六〇	倭国、使を遣わし方物を献す(『宋書』)
	大明 四六二	四六二	興の弟武、使を遣わし方物を献す。武、「使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事、安東大將軍、開府儀同三司、倭国王」を自称して除正を求む。順帝、武を「使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭王」に除す(『宋書』)
	昇明 四七七	四七七	高帝、南齊樹立にともない、武の軍号を鎮東大將軍に進む(『南齊書』)
	昇明 四七八	四七八	武帝、梁朝樹立にともない、武の軍号を征東將軍に進む(『梁書』)
南齊	建元 四七九	四七九	
梁	天監 五〇二	五〇二	

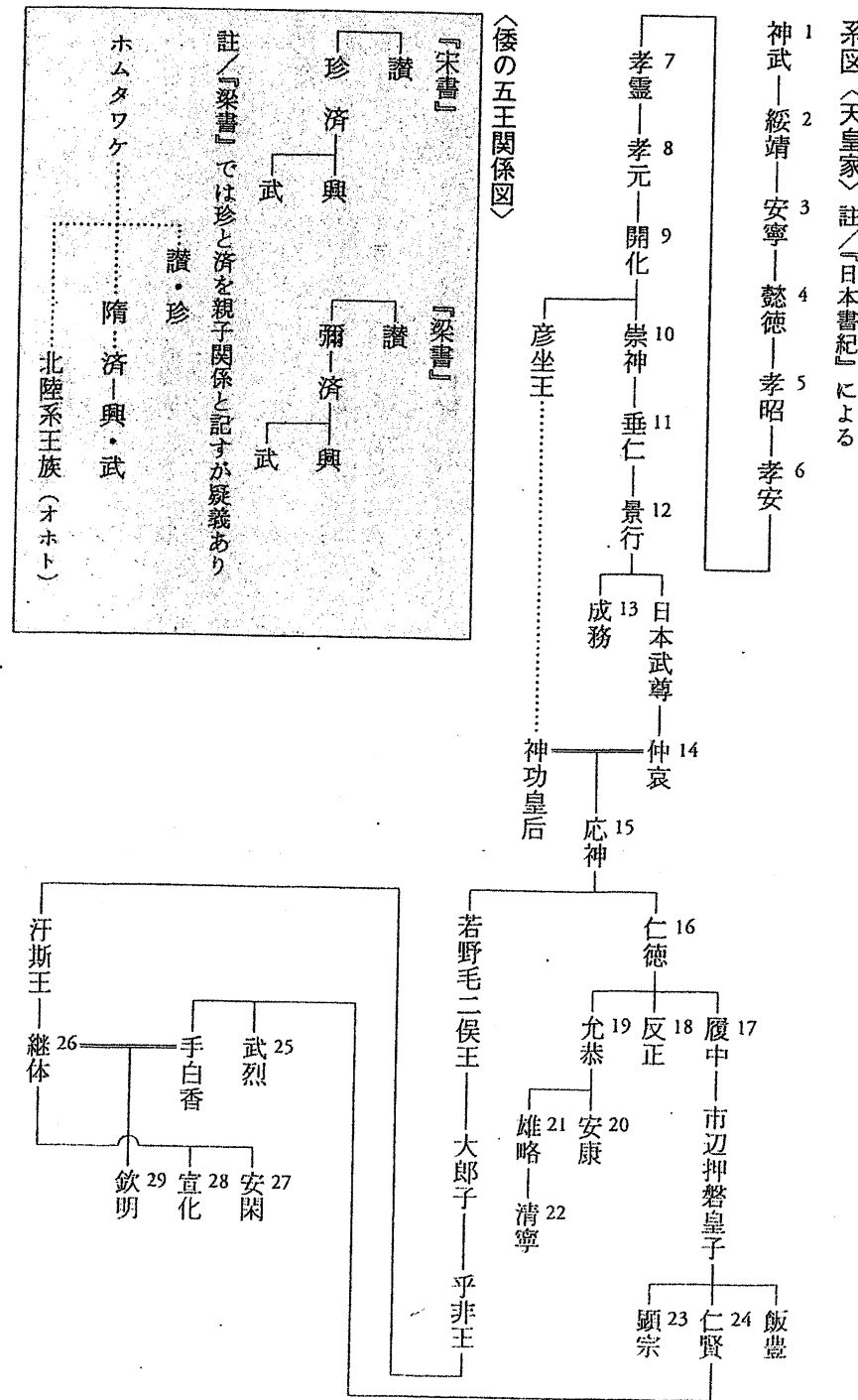
8. 倭の五王関連年表

西暦	宋	紀	記
412			仁徳没
421			履中没
425			反正没
427	讚	允恭	
432			
437			
438	珍		
443			
451	済		允恭没
453			
454		安康	
456			
457	興	雄略	
462	武		
478			
479			
480		清寧	
484			
485		顯宗	
487			
488		仁賢	雄略没
489			
498			
499			
502		武烈	

9. 倭の五王と『古事記』『日本書紀』



10. 『宋書』と『古事記』『日本書紀』



11. 天皇家系図

